

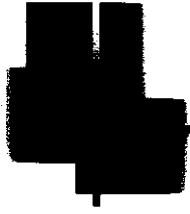
ジェネリック医薬品について



2003年7月10日

医薬工業協議会

資料 1-2
15. 7. 10



医療機関・調剤薬局対象アンケート

◆ 処方せん料及び調剤料等に係る加算点導入後の市場実態調査

➤ 調査対象

医療機関及び調剤薬局

➤ 調査方法

MRによる聞き取り調査

➤ 調査実施軒数

1) 医療機関 : 245
 診療所 : 174
 病院(200床未満) : 71
2) 調剤薬局 : 97
総実施軒数 342

➤ 調査対象地域

全国47都道府県

➤ 調査期間

平成15年3月17日～4月15日



調査医療機関における院内・外の内訳

◆ 院内及び院外処方(後発医薬品・先発医薬品)の内訳

2

調査施設	診療所	病院(200床)		全体
	174	71		245
院内処方	80	23		103
院外処方	94	48		142
後発医薬品処方を実施	62	33		95
先発医薬品のみで処方実施	32	15		47

後発医薬品の院外処方について

◆ 後発医薬品の処方が増加した理由

院外処方では後発医薬品を含む処方をおこなっている医療機関95軒中、昨年4月以降後発品を含む処方件数が増加したと回答した48軒が対象。

増加した理由	診療所 (35)	病院 (13)	全体 (48)
① 後発医薬品を含む処方せん料(2点)の新設	21	4	25
② 患者負担を考慮	7	5	12
③ 薬価の低減による影響	5	2	7
④ 医業経営の効率化を考慮	2	2	4

◆ 更に後発医薬品を使用促進させるための加算点数は？

院外処方をおこなっている医療機関全142軒が回答。

軒数	5点	7点	10点
診療所 94(有効回答:89)	27	18	44
病院 48(有効回答:46)	6	9	31
合計 142(有効回答:135)	33	27	75

後発医薬品の院内処方について

◆ 院内処方における後発医薬品の選択・使用に係る処方料の加算は？

院内処方をおこなっている医療機関全103軒が回答。(うち有効回答は99軒)

	診療所	病院	合計
院内処方施設	80 (有効回答:77)	23 (有効回答:22)	103 (有効回答:99)
必要である	65	19	84
必要でない	12	3	15

◆ 後発医薬品を選択・使用する場合の院内処方点数は？

上記表にて「必要である」と回答した医療機関84軒が対象。

軒数		5点	7点	10点
診療所	65軒	19	7	39
病院	19軒	2	1	16
合計	84軒	21	8	55

調剤薬局における処方せん受付調査

アンケート調査実施調剤薬局97軒中、後発品処方せんを受け付けている79軒による回答。

◆ 後発医薬品を含む処方せんの受付枚数の変化

増加した	減少した	変化なし	不明	合計
37	1	39	2	79

◆ 後発医薬品を含む処方せんの受付枚数の比率

10%以下	11～30%	31～50%	51%以上	不明	合計
16	29	18	9	7	79

調剤薬局における調剤料について

後発品処方せんを受け付けている79軒による回答。
有効回答軒数は68軒であった。

◆ 後発医薬品の選択・使用のための調剤料等の算定点数

9

① 調剤料算定(1剤につき)	3点	5点	7点
	12	33	23
② 1調剤算定(剤数に関係なく)	5点	10点	15点
	10	25	33
③ 医薬品品質情報提供料	15点	20点	25点
	11	32	25

医薬工業協議会会員会社対象アンケート

◆ 後発医薬品の使用環境整備による影響調査

➤ 調査対象

医薬工業協議会会員会社

➤ 調査方法

FAX送付による

➤ 調査実施数

完全回答 : 24

一部回答 : 20

総実施数 44社

➤ 調査期間

平成15年6月23日～7月3日

後発医薬品使用環境整備の影響

調査実施全44社のうち、完全回答のあった24社が対象。

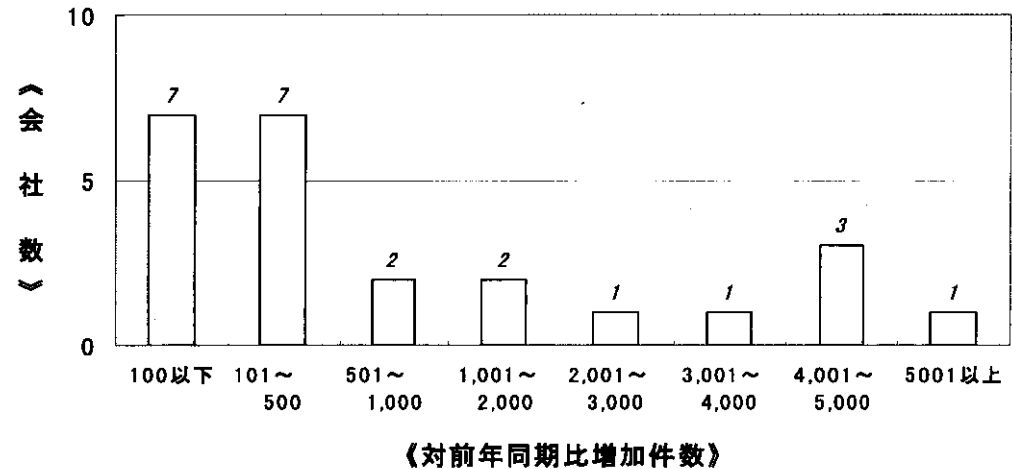
◆ 調剤薬局の取引増加件数

24社の延べ取引軒数

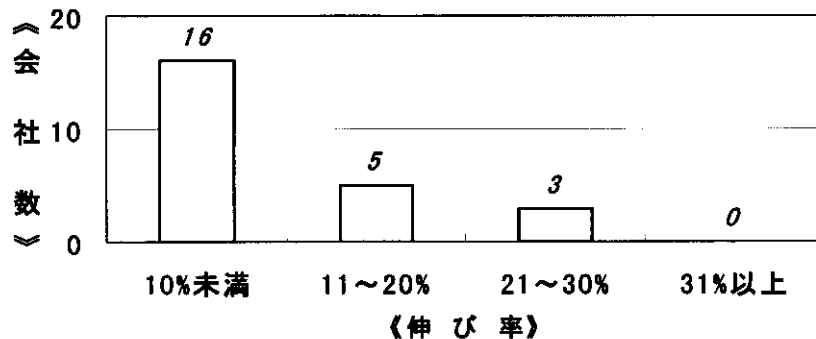
14年3月末まで: 97,155軒

39,176軒の増加
(増加率: 40.3%)

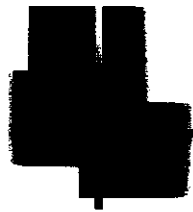
アンケート調査時: 136,331軒



◆ 調剤薬局における売上の伸長率



売上伸長率
=平成15年3月期の対前年比



医薬品の市場規模

◆ 長期収載品目と全医薬品との市場規模比較

2000年9月 厚生労働省調べ

		品目数	市場規模 (金額シェア)	市場規模 (金額ベース)
6 先発医薬品	再審査期間中のもの	718	19%	1兆2,198億円
	再審査期間が終了しているが、後発医薬品なし	1,458	33%	2兆1,186億円
	再審査期間が終了しており、後発医薬品あり (長期収載医薬品)	1,934	34%	2兆1,828億円
後発医薬品		5,262	7%	4,494億円
その他品目(局方品・生薬等)		3,053	7%	4,494億円
合計		12,425	100%	* 6兆4,200億円

* 2001年3月期の
IMSデータによる。

医薬工業協議会

薬剤費削減効果

調査品目数: 1, 195品目 (IMSデータによる売上高上位品目。)

長期収載先発品売上

2兆588億円 *

先発品から後発品へ(平均薬価)

9,760億円

47%

53%

10

先発品売上	先発数量 × 後発薬価(平均)	価格差
*2兆588億円	1兆827億円	9,760億円

* IMSデータより集計。売上金額は薬価ベース。

医薬工業協議会

医薬工業協議会の要望事項

1. 診療報酬の現在の措置は引き続き継続して頂きたい。その上で出来れば、加算点数をさらにそれぞれ10点、品質情報提供料として20点にして頂きたい。
2. 院内処方にも同じ加算する措置をお願いしたい。
3. 調剤薬局への納品は100錠包装が主になるので、流通コストがかかりすぎ採算割れをしているのが現状であります。このことを考慮に入れて頂いて小包装に関しては薬価の引き上げを検討して頂きたい。
4. 新しい薬価制度の導入を検討して頂きたい。